



3月17日、定例の打ち合わせを行う「きつつきの会(町民自治会)」集会所の前にて

仲間とともに  
その24

ポランティアグループ  
おひさま

活動データ

- 震災の年(平成23年)、手芸が好きな人が集まり活動を開始。
- 村社会福祉協議会と連携し、村の敬老会に協力。避難先自治会などでさまざまな手芸教室も行っています。
- 現在は14人で活動しています。

得意の手芸を通してポランティア活動に取り組み「おひさま」の皆さん。いつも「何をしようか」とアイデアを出し合うところから活動が始まるそう。動植物や景観を布で表現し村文化祭で村長賞を受賞した「飯館マップ」も、飛び交ったアイデアがそのまま作品になりました。会長の田村紀恵子さん(二枚橋・須萱)によれば「皆に個性があり得意なことを教え合っています」とのこと。村山孝さん(深谷)は活動を通して「一人ではできないことも集まってならやれる」と感じているそうです。

3/11

木の葉の舟に願いをのせて

相馬市の慰霊と復興祈願の集いにて

村の小学生や村民がメッセージを書いた「木の葉の舟」が、相馬市原釜地区の海岸で、慰霊と復興祈願の集いに訪れた参列者の手で海に流されました。

いる活動で、村民が参加するのは初めてです。

鎮魂の思いや復興への願いを書いた泰山木(たまき)の葉を海に流す「木の葉の舟」は、現在は伊達市に住む永野泉さんが、宮城県石巻市で津波被災した自宅に唯一残った児童書「じろはつたんのストーリー」になぞらえて行つて

小学生が書いた中には「飯館村でみんなでご飯が食べたい」「自分たちの手でふるさとに戻れるようにしたい」など村の再生を願うものも多く、活動を担当した草野小学校の飯沼由佳先生は「直接聞く機会がなかった言葉に、子どもたちが持つ村への強い思いを感じました」と話していました。



村民が思いを託した木の葉を読む永野さん。相馬仮設の談話室にて



相馬市の皆さんの手で約3500枚の木葉の舟が海に放たれました

表紙 草野・飯桶・白石小学校卒業式

震災時は2年生。環境の変化を乗り越えたくましく成長した卒業生です。詳細はP21を。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。